

経営比較分析表（平成30年度決算）

奈良県南和広域医療企業団 南奈良総合医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	200床以上～300床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	25	対象	ド透訓	救臨感へ災地輪
人口(人)	建物面積(m ²)	不採算地区病院	看護配置	
-	22,396	非該当	10:1	

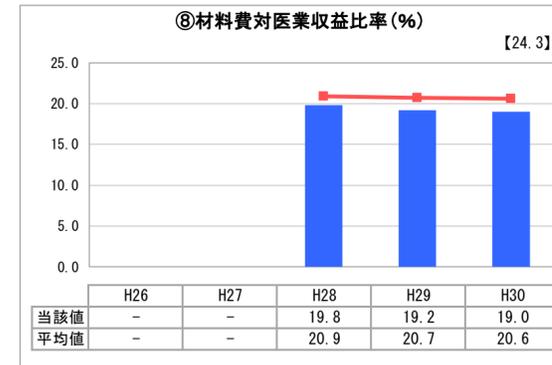
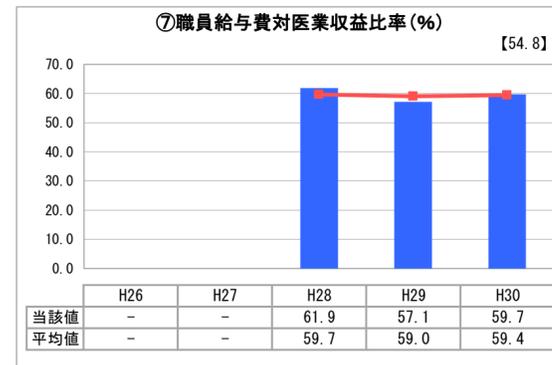
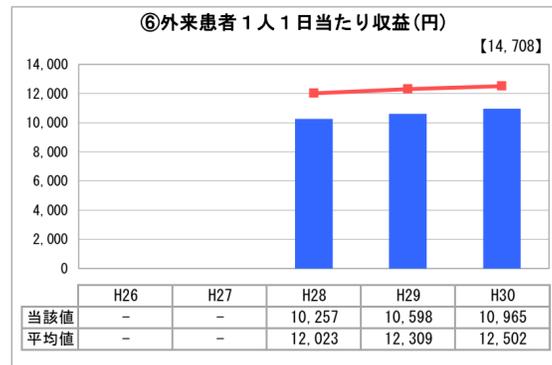
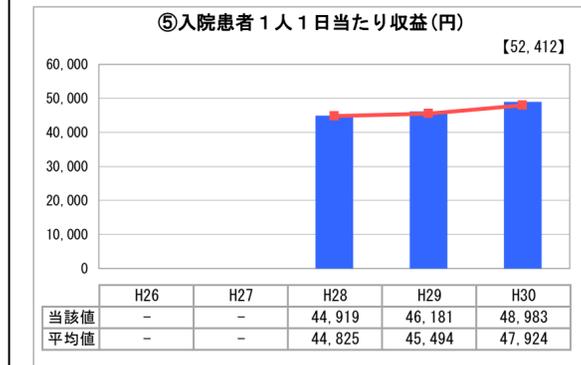
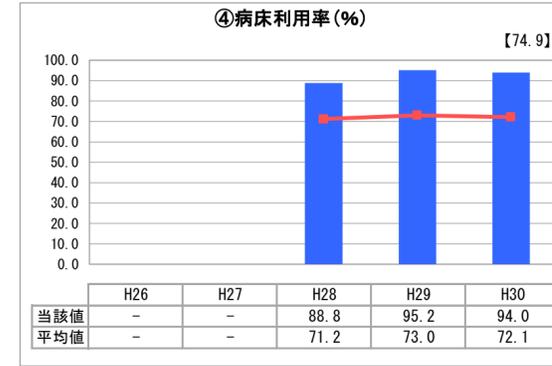
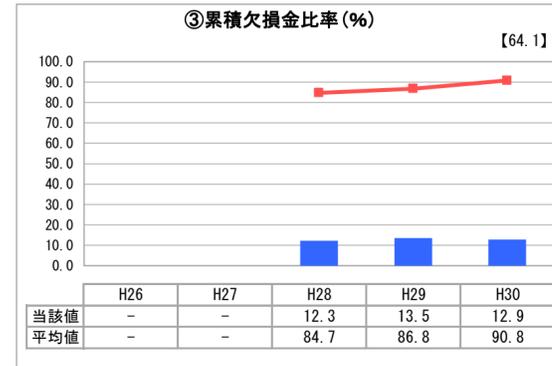
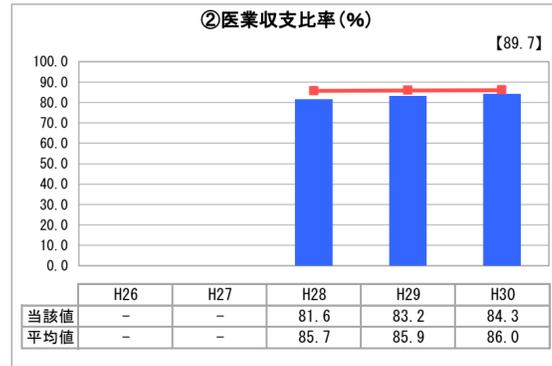
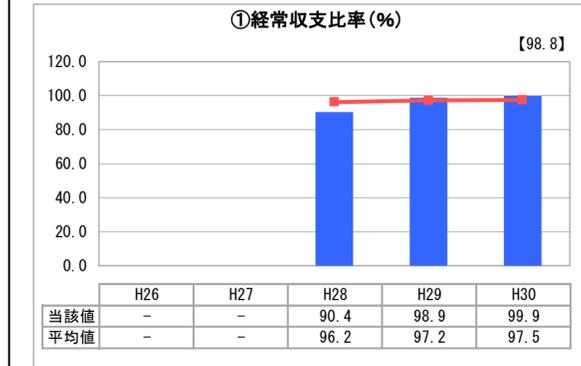
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

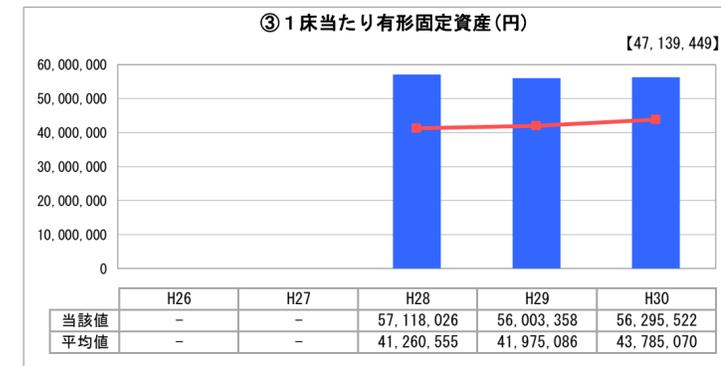
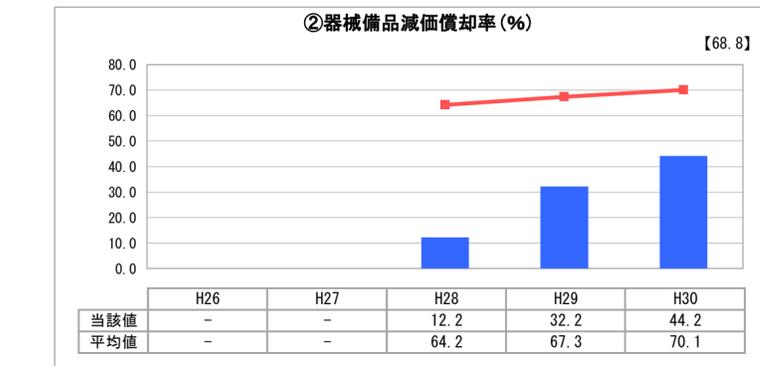
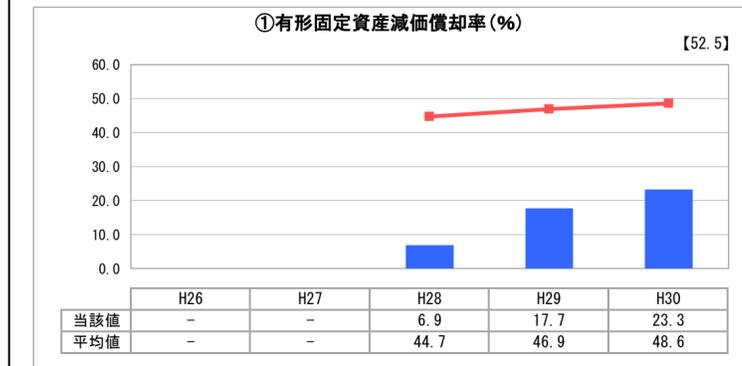
許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
228	-	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	4	232
稼働病床(一般)	稼働病床(療養)	稼働病床(一般+療養)
228	-	228

グラフ凡例	
■	当該病院値(当該値)
—	類似病院平均値(平均値)
[]	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組(直近の実施時期)

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
平成29年度	-年度	-年度

I 地域において担っている役割

南和保健医療圏における唯一の救急告示病院としての救急医療、小児救急医療、地域の中核病院としての消化器疾患、糖尿病、外傷・運動器疾患等の専門医療、災害時に対応する医療、在宅への連携を見据えた高齢者医療、へき地医療に対応している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

南和保健医療圏内の公立3病院の病院機能を再編し、医療圏内における救急病院(急性期)として平成28年度から運営を開始した。

平成30年度の救急搬送受入件数が、昨年度と同様に再編前の約2倍にあたる受入件数となるなど、高い病床利用率を維持しており、また、外来患者数が増加するなど、入院・外来収益が増加したため、経常収支比率や医業収支比率などは向上している。今後とも、経常収支比率の100%以上に向けて、収益向上、費用の適正化等の取り組みを進めていく。

2. 老朽化の状況について

医療圏内の公立3病院の再編により、新たに救急病院(急性期)として施設整備を行ったため、1床当たりの有形固定資産は平均値より高くなっている。

初期投資が賄えるよう収益の確保、費用の適正化に向けたコスト管理などの取り組みを進めていく。

全体総括

南和保健医療圏内の公立3病院を1つの救急病院(急性期)と2つの地域医療センター(回復期・慢性期)に再編し、平成28年度から運用開始した。

「南和の医療は南和で守る」という基本理念のもと、南和地域における安心安全の医療体制を将来にわたって持続的に確保していくために、引き続き、公立病院改革プラン(南和広域医療企業団中期計画)に基づく取り組みを進め、経営環境の改善を図っていく。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。